

くろつち便り

今月の内容

米軍基地化許さない(1/31)(2/3) / Series学校現場から⑫ / ごてれつの独り言⑲ / 9条の会 新春公演会(2/6) / 労金GG大会(3/28) / 野草折々58(カドゥ) / 共助会GG大会(2/12) / **次回の金曜集会は3/3日/17:30~** (4月から17時)



↑会報QRコード

米軍基地化を許さない 米軍は帰れ!

1月31日、米軍空中給油機の訓練があるというので、いつものメンバーが野里地区の高台での訓練反対行動に集結した。

KC130が飛来するのは2年4カ月ぶりだという。市のだ真ん中の基地で訓練とは、危険

極まりない。一歩間違えば大惨事ということは見えている。



またいざ戦争ということになれば真っ先に、この基地だけでなく周辺部も標的にされるということは、現在進行中のウクライナ戦を見れば明らかだ。

2月3日には金曜集会有り、

そこでも原発問題と同様に、基地問題についても市民に訴えた。

自分だけは大丈夫という思いを心理学では「正常性バイアス」と呼ぶそうだけど、現政策は原発にしる基地問題にしる国民のそういう心理をうまく操作しているように思えて仕方がない。



ぶつくさ言う人の独り言

19

◆Ukraine War Stories

先ごろクローズアップ現代で戦わない戦争ゲーム「ウクライナ戦物語」が取り上げられていた。兵士の立場からではなく一人の市民として、戦禍や占領地をどう生き延び

るかという、開発チームの実体験を基に作られたゲーム(無料)だそうで、若者に人気だという。

思い出すのは1950年代出版の「夜と霧」だ。精神医学者 فرانクル がナチ強制収容所での実体験を基に、心理学の観点から被収容者の行動や心を描いた本(体験記)だ。

死と隣り合わせの不安や極寒の中での過酷な作業など「収容所の1日は1週間より長い」という。

そんな中でどう決断し生き延びてきたかという心理状態が、冒頭のゲームと重なって見えてきた。ゲームにしる戦争を他人事と考えず民間人の立場で追体験しようと考え

る若者が増えてきたのは嬉しいと思う反面、相手を憎む感情が異常に膨らむのではという危惧も一方ではあるのだが。

(「夜と霧」の方では、筆者は具体例を挙げ、こちらにも向う側に加担する人がいたように、逆に監視人の中にも善意の人がいたことも書いている。)



我が校も今年

2月に入ると、いよいよ来年度の教育課程編成作業が始まります。

「節分」に豆まき・鬼役までさせられて逃げ回る担任。子どもたちのお目当ては豆。「年の数だけですよ。」と二つ二つ数えながら手渡します。「先生も少しください。」と言う子どもたちに、「ダメです。先生は63個食べるけど」と、時には鬼にならないといけません。

その日の給食に「福豆」が出ました。「もう10個食べたけど食べてもいいんですか?」と、何とも素直な子どもたちです。「給食の豆は特別だから食べてもいいのです。」と、意味不明な回答に「やっ」と喜び子どもたちでした。

「節分」に豆まき・鬼役までさせられて逃げ回る担任。子どもたちのお目当ては豆。「年の数だけですよ。」と二つ二つ数えながら手渡します。「先生も少しください。」と言う子どもたちに、「ダメです。先生は63個食べるけど」と、時には鬼にならないといけません。

学校現場から シリーズ その⑫ 大黒小 関下俊郎

学校現場から

度から来年度にかけて「業務改善」を進めるための具体策を話し合う機会が多く設定されました。まず、体育的行事の「校内縄跳び大会」が、昨年までは2月の開催でしたが、今年度は1月の授業参観に実施しました。(3学期始まってすぐの授業参観と、学級PTAがカットされたことになりま。また、年度末に向けて忙しくなる時期に負担となっていた「学校文集作成」が今年度からカットになりました。さらに、来年度は2学期始まってすぐの授業参観と学級PTAがカットという約束ができています。体育担当者には大きな負担になっていた「夏休みのプール開放」も半分になることがPTAでも了承されました。「何でもかんでもカット

トすればいい・・・」ということではありません。その時期の業務がいかに無理大変だったか、子どもたちに向き合う時間が削られていたのかを訴えた結果です。ここまでの教育課程編成にかかわる管理職の対応には特別問題なし、と言ったところでどうするか。

先日、「来年度の土曜授業について相談がある。」と校長から申し入れがありました。内容は、「来年度2月の土曜授業は3連休にかなので実施しない。」ということでした。これまで、「ハッピーマナーデー」にかかる週は実施すべきでないと言いつつ続けてきたのに、「今回に限ってどうしたのさ? 何か裏があるのか・・・?」安心するにまだ早いのかも。しれない。



松元ヒロ公演



2月6日、松元ヒロ公演は、計画段階では、平日の昼間ということで観客数を心配しましたが、当初目標の250名を大きく超えました。くろつちの果たした役割は大きいでした。

開場時刻12時半前から多くの観客が来られて、12時半を過ぎると受付が一時パンク寸前でした。

途中休憩なしの2時間半、次から次に繰り出す風刺の効いたセリフの数々、

▼(安倍葬儀で) 死んだ人に12億も使わなくて生きて人(子ども達)に使うべき

▼安倍晋三、心臓はあるのに心がない

▼カードにはハートがあるのにトランプにはハートがない

などなど、どのセリフにも胸のすく思いがしたり怒りが再燃したり・・・

73才とは思えないほ



どの身のこなしで独り舞台を演じ、客席からは笑いが続きました。また舞台上手の客席を指さし非難口調で「あなた方自民党は・・・」と

語る場面がありましたが、米永さんの話では本当にそこには自民党の方がいたけど、一緒に笑っ

ておられたそうです。アンケートでは再来を期待する声が多かったようですが、来年もまた来てくださるようです。その際はまたお願いします。

労金GG大会

久々に、友の会グラウンドゴルフ大会がもたれます。

◎期日 3月28日(火)

受付 8時30分

(雨天延期)

◎会場 鹿屋GG場

◎申込 内俊朗へ

電話 43-9464

3月10日~20日



共助会GG大会



前々日までの予報では、とても大会実施は無理だろうと思っていたけど、前日朝には、ひよっとしたら実施できるかなあから、夕方にはこれならいけそうに変わり、当日の朝は、絶好のGG日和に。

■飯山実行委員長の挨拶



実行委員長の笛の合図でスタートしました。

球が滑りやすいという話でしたが、それでも昨年の大会よりもホールインワンの数が多かったのは、皆さん腕を上げられたのかも。(昨年は7人で計8回)

挨拶にもあったように参加者50名の皆さん、青春を大いに楽しんでいるようでした。



この暖かさの中で精一杯、青春を楽しんでください。今日のはかねて足が痛い人も、暖かさのおかげでいつもと違えようから頑張ってください。



結果は次の通り。(敬称略)

- 優勝 山本良三 40打
- 準優勝 山口伸也 40打
- 3位 森 轄隆 41打
- 4位 岩山淳子 41打
- 5位 山口玲子 41打
- BB賞 永吉浩子 61打
- ホールインワン賞

長崎雄二、米良晶子、木下俊子、山口玲子、岩山淳子、岡元道枝、真島幸則、矢野務(2回)、二木洋子、山口博美、野口幸四郎、森轄隆、住吉務

野草折々-58-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

ノカイドウ (バラ科)



5月の連休に、世界中でここだけにしか楽しめない植物です。

霧島のえびの高原に自生する固有種

1997年5月4日 えびの高原



ありがとう そして これからも 退職者を励まし送る会 鹿教組大隅支部

2019年を最後に送る会がありませんでした。3年ぶりに表題の会が2月25日に開催されました。「ありがとう、そして これからも」は「(これから)くろつちで頑張ってください」の意味だろうと勝手に解釈しています。

3年間で退職された組合の先生方は39名に上ります。その中から何名かの話の一部分だけ、ほんの断片を掲載します。

堀内憲二さん(今年度退職)



ひとまず今年で退職するんですが、アディショナルタイムがあります。これが5年になるのかも少し長くなるのか分からないけど、現職の方と同じようにこれまで以上に組合活動も頑張っていきたい。

原園正敏さん(今年度退職)



眞島さんに「ちょっと話があるから」と園田さん(後の書記長)と一緒に呼ばれて「あなたがたのどっちか、来年書記長をしろ」と言われました。その後いろいろあって、鹿屋から通勤して、本部書記長、執行委員長として勤め上げました。みなさんの支えがあってこそです。

長田富昭さん(昨年度退職)



教員生活36年余りのうち、足かけ30年、曾於の学校に勤務しました。2校目で友の問題で、地域の有力者の家で「お前は日教組か。抜けろ」と言われたけど、最後に当時のPTA会長から「すまなかった」という言葉をいただきました。長い教員生活を通して、子どもを主体にして取り組んできたというのが、私の自負です。

片平喜代三さん(昨年度退職)



力で子どもたちを抑えて満足していたけど、組合の学習会に参加して、いままでのやり方はダメなんだと自覚させられて、教師としてのあり方を教えられました。

宇都幸枝さん(昨年度退職)



大隅支部が私を育ててくれました。いろいろな経験や学習ができました。夫は、最初は組合に入ることに反対していたけど、最後には夫の意識も変えることができました。

大木順子さん(昨年度退職)



細山田小で0分会を経験して、仲間が大事なあとつくづく思いました。再任用で働いています。今後、職員にどう働きかけるかも悩みです。

中馬三樹郎さん



早期退職で市議会議員になりましたが、それも先生方、組合のおかげです。これからも皆さんの要望に応えたいです。教え子が教員になったのが、一番の喜びです

永吉浩子さん(一昨年退職)



くろつちと退女教との関係がよくわかりませんが、退女教の先生が声をかけてくださるのでうれしいです。

山下耕平さん(一昨年退職)



私が組合に入ったのは1985年、阪神が、バース・掛布・岡田の3人がホームランを打って優勝した年です。新任地でPTAの大物から「組合には入るな」と声をかけられました。しかしその人が「いい先生」と言ったのが組合員でした。自分の考えを地道に訴えることで理解してもらえるようになりました。



団結がんばろう

長い間、ご苦労様でした

くろつち便り三月号は、2ページで済ますつもりで編集してきました。役員会は3月1日だし、「励ます会」の記事はとても間に合いそうもないから、次号に掲載

しようかと考えたからです。ところが「励ます会」だけでなくウクライナ戦への反対集会など、今月号に掲載しないと時機を逸する記事も多く思い直しました。

それで急遽、ページ数を増やすことにしました。(決断が遅かった分、取り掛かりが1週間前になってしまい、紙面が乱調気味な点にご容赦ください。)(樋園)

編集後記

2/4 報道特集より

TBSテレビ2月4日の報道特集、見られた方も多いと思いますが、そこでは日本の米軍基地化問題を取り上げていた。

番組の中で、いろんな方々にインタビューされていた。

松下徳二さん

アメリカがここを自由に使えるようになるための第一歩かなという気がして反対です。このままどんどんどんどん押し流されるのかなと心配です。



眞島幸則さん

言論の自由なんていうのはまさに戦争が起これば今のウクライナ（侵攻）でロシアもそうだけど、そういう論調はすべて権力で封殺される。もう今反対しないと本当に日本という国には攻撃できる そういう状況にあって、戦争前夜に近づいてきていると言える。



終戦後、進駐軍が最初に上陸した地点に、後世に歴史の記憶として残すために立元さんら高須町の有志で建てられたという「上陸地の碑」も紹介された。

立元良三さん

78年経って、平和が壊されていくような気がする。鹿屋に無人機が来て、もうアメリカの軍事基地になったみたい。戦争になったら真っ先に鹿屋が狙われるんじゃないか。皆もう平和ボケと言うか、戦争のことをあまり考えない。一方ではどんどん煽る。何となく昔に帰っていくような、また戦争する国に変わっていくような気がする。



最後に基地のあるどの市も交付金との引き換えの話もあったが、命を金で売るようなものだ。

ウクライナ戦、即停戦を

2月24日は、ロシアがウクライナに侵攻を始めて1年になる。平和センターでは一里山交差点で即停戦を市民に訴えた。

緊急にも拘わらず、上山兄弟をはじめ、20名近くが集まった。（写真両端は四朗・陸三兄弟）

戦争は泥沼化し、新たな段階に入った。22日には「新START」（新戦略削減条約）の

停止をロシアが打ち出した。新〜は、いわゆる米露の核軍縮条約である。ウクライナ・ロシア戦

から米露戦争へ、ひいては世界戦へと変貌しつつある。話し合いによる解決が急がれる。

道下勝さん

私たちはいかなる戦争にも反対しています。ウクライナでは今、多くの市民や子ども達が犠牲になっています。ロシアだけでなく、ウクライナ・ロシア双方が直ちに戦争

をやめなければなりません。日本政府はウクライナ支援を言うだけで、何も提案していません。大戦経験国としてもっと「戦争をやめろ」と言うべきではないでしょうか。



ぶっさ言うん 20

■何とかの冷や水

心理学で「スポットライト効果」と言って、実際は誰も見ていなかったりするのに、見られている自分というのを意識するらしい。見栄とか辺幅もそれだろう。

我が家の初老（9才）の超小型犬クロ、気を引くものがあると突然チョコチョコ走り出し、絶念することがない。この日は娘たちが帰ってきていて、散歩中に家の方から娘たちの甲高い声が聞こえてきたのだ。

いつもはリードでクロを制御するのだが、この日はどう行動するか気になって、止めとけばいいのにクロと一緒に走った。こういうのを年寄りの冷や水というんだろう、年甲斐もなく競争みたいになってしまった。

たかが超小型犬で大した速さじゃないけど、当方には年不相応ということに加えかねての運動不足も祟り、20mも走らない内に息が少し上がってきた。足の太腿も重くなったと実感したが、相手は初老



犬だ。負けてはいられない。高調子の声は中庭から聞こえてくる。あと少しだ。

もう少しというところで、僅か10センチ余りの段差に足をとられて転んでしまった。幸いクロの他には誰も見ていなかった。ガラス製の眼鏡だったら割れていただろうが、顔や服のあちこちに土がついたぐらいで済んだ。

だが妻に「それどうしたの」と聞かれても、とても犬と競走したなどとは言えない。見られている自分を意識したのだろう、何もなかったように体裁を繕い、

「なに、ちょっと転んだだけだ」

■魔の一週間

2月下旬、二階のネット中継装置が故障した。インターネットだけでなく電話（光）も使えない日が機器交換までの約1週間続いた。

何にもできない日が続く精神よくない。

高揚感をもたらすというプロセス依存症の一つに、ネット依存症というのがあり、孤独感や絶望感に苛まれる（大辞泉）というが、そこまではなかったものの魔の一週間であった。（24日に復旧。樋園）

